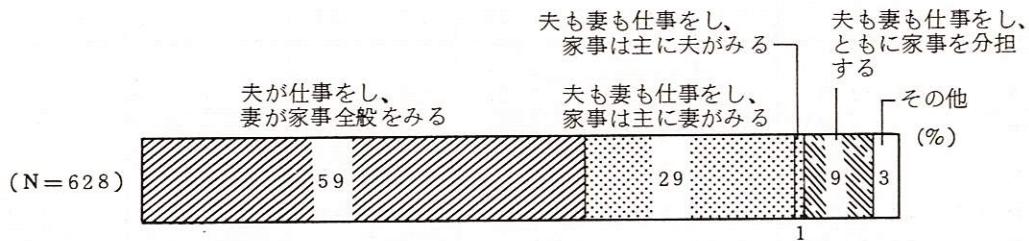


## 9. 男女の平等意識

### 9-1. 家庭での夫婦の役割分担

17-1. [カード] あなたのご家庭では、夫婦の役割分担はどのようにになっていますか。この中からお答えください。

図9-1. 家庭での夫婦の役割分担



配偶者のいる人に家庭での夫婦の役割分担がどうなっているかを聞いたところ「夫が仕事をし、妻が家事全般をみる」という人が 59 %、「夫も妻も仕事をし、家事は主に妻がみる」という人が 29 %で 9 割近くがこのいずれかである。なお、夫婦共働きは 39 %と約 4 割を占める。

職業別にみると、自営業では 3 人に 2 人の割合で共働きをしているが、そのうち「ともに家事を分担する」というのは 18 %に過ぎず、大半 (47 %) は「家事は主に妻がみる」と答えている。勤め人では労務系勤めの人に共働きが 10 %ほど多くなっているが、全体としては事務・技術系勤めも労務系勤めも「妻が家事をみる」比率は同じである。つまり労務系勤めの世帯に女性の負担が大きくなっている。

ライフステージ別では、家族成長後期に至るまで共働きの比率は漸増し、それに合わせて妻の負担が大きくなってゆく傾向がある。

図9-2. 家庭での夫婦の役割分担(本人職業別)

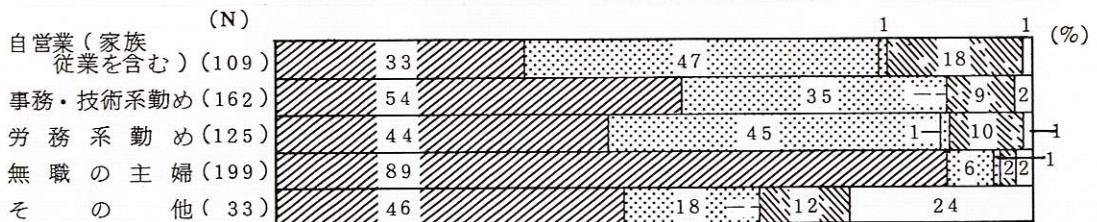
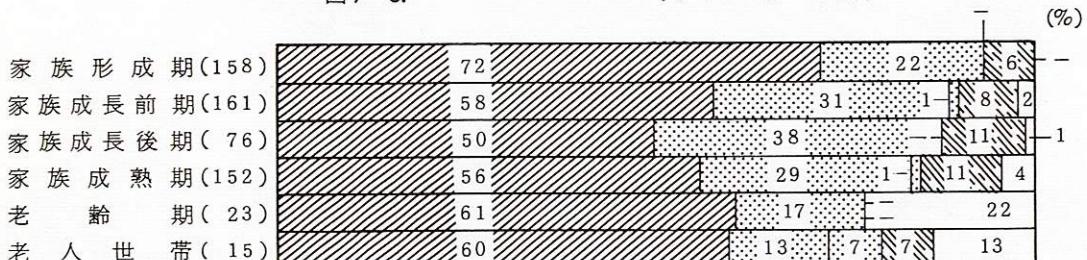


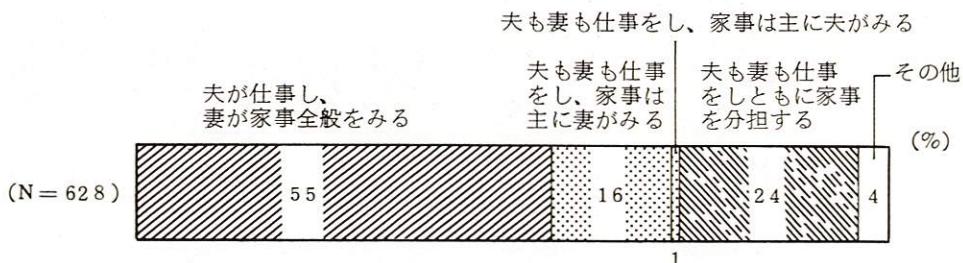
図9-3. " (ライフステージ別)



## 9-2. 本来の夫婦の役割分担

17-2. [同じカードでお答えください] それでは、男女の役割分担は本来どうあるべきだと思いますか。この中からお答えください。

図 9-4. 本来の夫婦の役割分担



ところで、現実とは無関係に、男女の役割分担が本来どうあるべきかを聞いた。これに対して、「夫が仕事をし、妻が家事全般を見る」という答えは 55 % と実際よりも 4 % 少ないだけであるが、「夫も妻も仕事をし、家事は主に妻がみる」が実際と比べて 13 % も少なく、「夫も妻も仕事をし、ともに家事を分担する」は 15 % 多くなっている。共働きの比率自体は変わらず、その中で「家事は妻」の一部が「ともに分担」に変わったわけである。

この「家事は妻」から「ともに分担」に変わる比率は、性・年齢別にみると大きな違いがある。すなわち、男性では「ともに分担」が実際の 2 倍に増えただけであるのに対して、女性ではこの比率が実際の 4 倍近く増えている。また、女性の中でも、この「ともに分担」を本来の姿とする人は高齢になるに従って減ってゆき 60 歳以上では実際の比率とまったく変わらなくなり「夫が仕事をし、妻が家事」が男性と同じ比率にまで増える。

この結果を実際の家庭での役割分担とクロスしてみると、「夫も妻も仕事をし、家事は主に妻がみる」という人は、本来の姿としては「夫が仕事をし、妻が家事全般を見る」、「夫も妻も仕事をし、家事は主に妻」、「夫も妻も仕事をし、ともに家事を分担する」に 3 等分されることがわかる。

図 9-5. 本来の夫婦の役割分担(性・年齢別)

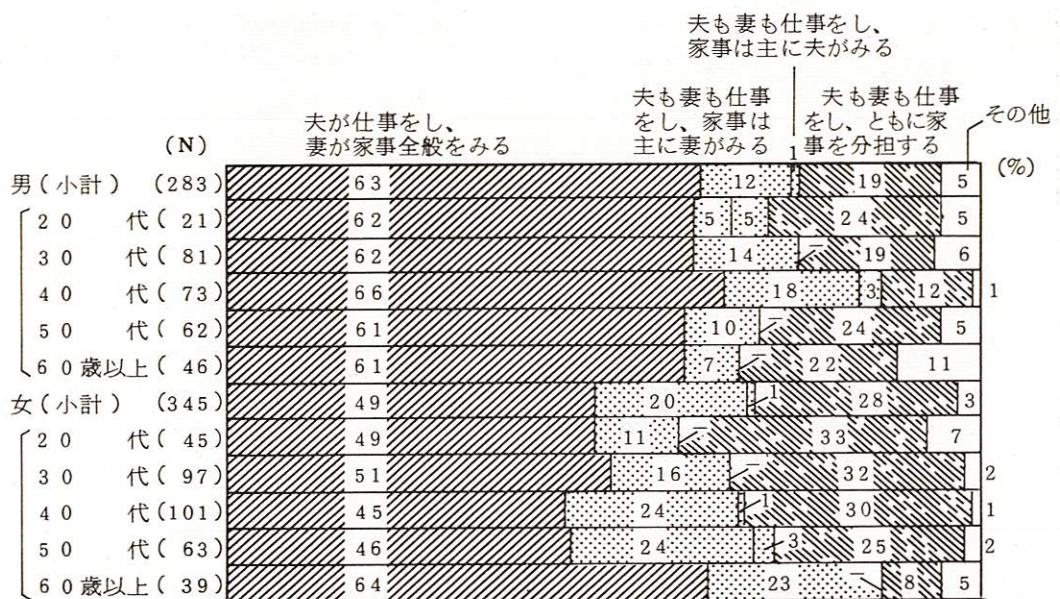
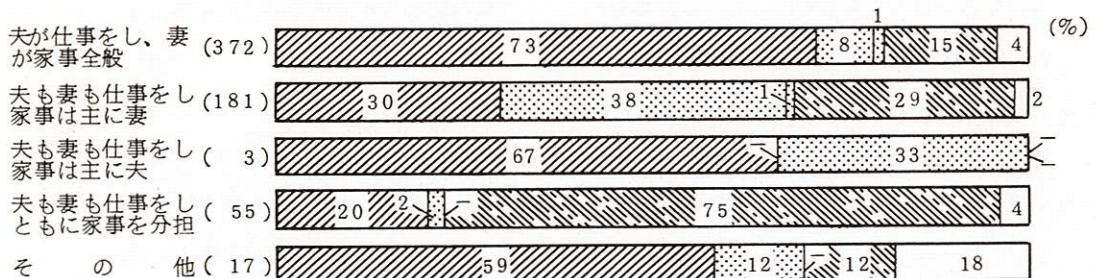


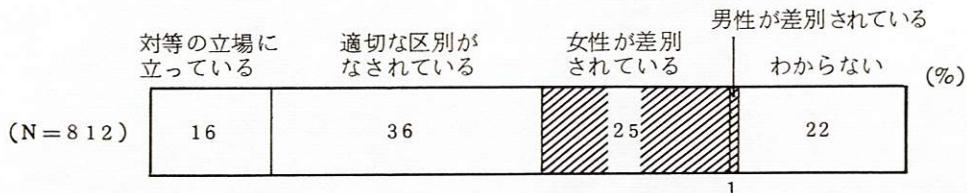
図 9-6. " (現実の役割分担別)



### 9-3. 男女の地位・立場

Q18. [カード] あなたは、現在の職場における男女の地位や立場についてどう感じていますか。  
この中からお答えください。

図 9-7. 男女の地位・立場



現在の職場において男女が「対等の立場に立っている」と感じている人は16%、「適切な区別がなされている」と感じている人は36%で約半数が特に問題はないと考えているが「女性が差別されている」と思っている人も25%と4人に1人いる。

性・年齢別にみると、「女性が差別されている」という見方は男女によって異なり、男性が17%であるのに対して女性は31%が多い。また、男性の間では「女性が差別されている」と思う人の割合に年齢差はないが、女性の場合では20代から40代までが4割弱ではほぼ同率なのが50代で3割弱に減り、職場の状況を知らない60代では僅か8%となっている。

これを職業別でみると、「女性が差別されている」とみている人は就業者の中では労務系勤めの人にもっとも多く、事務・技術系勤めの人はこの数値が平均並みで、「適切な区別がなされている」と思う人の割合が半数近くに達している。

図9-8. 男女の地位・立場(性・年齢別)

	対等の立場に立っている	適切な区別がなされている	女性が差別されている	男性が差別されている	1 わからない (%)
男(小計) (367)	23	42	17	17	
20代(62)	16	50	18	3	13
30代(110)	24	41	22	1	13
40代(79)	19	49	17	1	14
50代(65)	32	29	15	—	23
60歳以上(51)	22	37	12	2	28
女(小計) (445)	11	31	31	0	27
20代(73)	10	44	38	—	8
30代(109)	6	34	37	—	24
40代(115)	14	28	37	—	21
50代(82)	15	38	28	—	20
60歳以上(66)	9	11	8	71	2

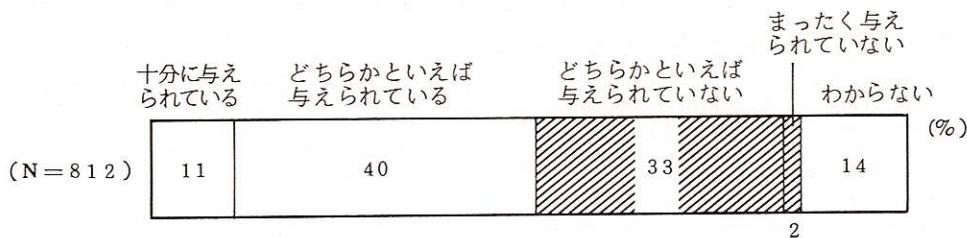
図9-9. " (本人職業別)

自営業(家族 従業を含む)(135)	27	29	17	1	26	(%)
事務・技術系勤め(230)	21	47	26	0	7	
労務系勤め(160)	17	34	31	1	16	
無職の主婦(206)	5	36	28	1	31	
その他(81)	9	21	17		52	

#### 9-4. 女性の就労機会

Q19. [カード] あなたは女性に対して、仕事に就く機会が十分に与えられていると思いますか。  
この中からお答えください。

図9-10. 女性の就労機会



女性の就労機会が「十分に与えられている」と思っている人は11%、「どちらかといえば与えられている」という人が40%で半数は与えられていると思っている。これに対して「どちらかといえば与えられていない」33%と「まったく与えられていない」2%の計は35%となり、3人に1人は与えられていないと思っている。

性・年齢別による認識の差は前項の「男女の地位・立場」の場合と共通しており、「与えられていない」とみる人は男性より女性に多く、女性の50代以降で急激に減少している。

職業別では、「男女の地位・立場」の場合と若干異なり、労務系勤めの人よりも事務・技術系勤めの人「与えられていない」とみる人が多くなっている。

図9-11. 女性の就労機会(性・年齢別)

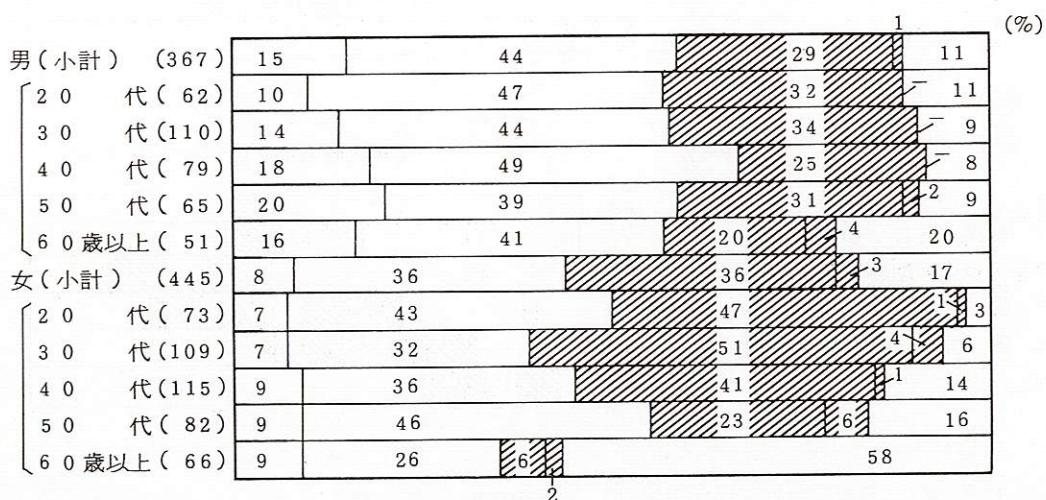
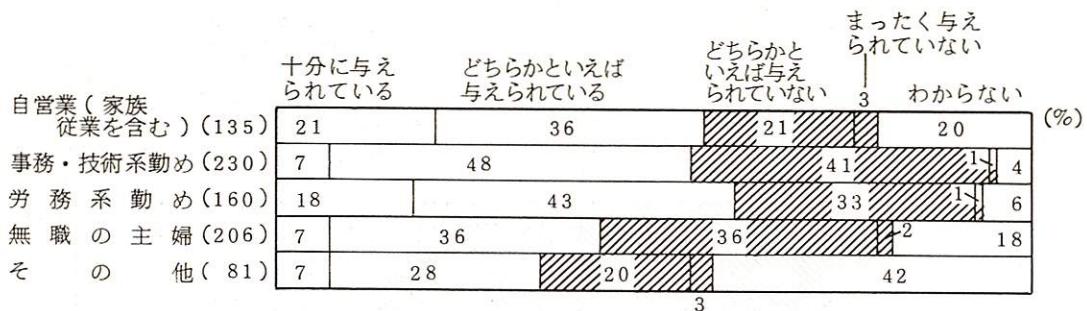


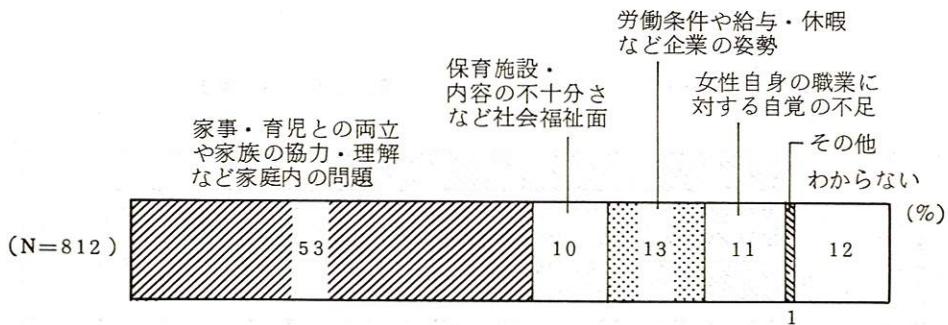
図9-12. 女性の就労機会（本人職業別）



## 9-5. 女性にとっての就労の障害

Q20. [カード] それでは、あなたは女性が職業を持つうえで最も大きな障害となっているものは何だと思いますか。この中から1つだけお答えください。

図9-13. 女性にとっての就労の障害



女性が職業を持つうえで最大の障害は何かを聞いたところ、「家事・育児との両立や家族の協力・理解など家庭内の問題」という答えが53%と過半数を占めている。「労働条件や給与・休暇など企業の姿勢」13%や「保育施設・内容の不十分さなど社会福祉面」10%などの社会的な制約はともに1割程度に過ぎない。

全般的に男女間に大きな認識の差はないが、年齢別では30代、40代の女性に「家庭内の問題」をあげる人が多く、また20代女性では「社会福祉面の不十分さ」をあげる人が2割を超える。

実際の家庭での役割分担別にみると、「家庭内の問題」をあげる人は「夫が仕事をし、妻が家事全般」という人に、また、「企業の姿勢」は共働きの人に多くなっているが、「社会福祉面」と「女性自身の自覚の不足」については違いはみられない。

図9-14. 女性にとっての就労の障害（性・年齢別）

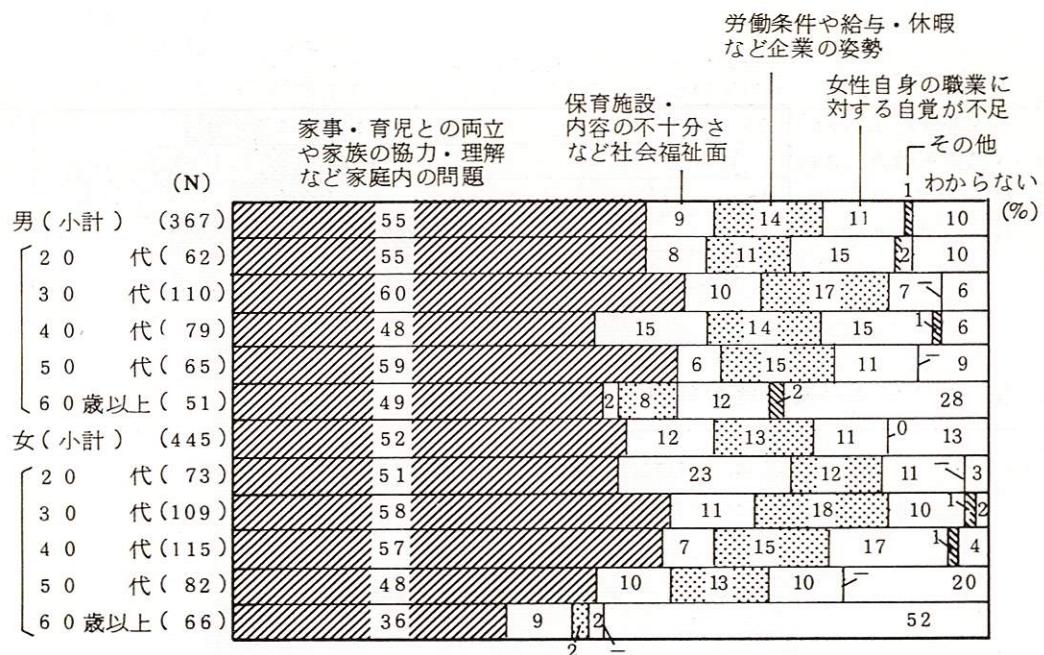


図9-15. " (家庭での役割分担)

